研究課題別事後評価結果

１．研究課題名：　集合視による注視・行動解析に基づくライフイノベーション創出

２．研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）

研究代表者

佐藤　洋一（東京大学生産技術研究所　教授）

主たる共同研究者

杉本　麻樹（慶應義塾大学理工学部　准教授）

Andreas Bulling（Max Planck Institute for Informatics, Perceptual User Interfaces Group, Independent Research Group Leader）

Kris M. Kitani（Carnegie Mellon University, The Robotics Institute, Assistant Research Professor）

菅野　裕介（東京大学生産技術研究所　准教授）

３．事後評価結果

○評点：

A+　非常に優れている

○総合評価コメント：

複数の人々が装着するウェアラブルカメラとアイトラッカーを分散センサとして利用して、グループの注視と行動を計測・理解する集合視技術を開発し、注視計測技術および注視・行動認識技術で高い成果をあげた。研究開始時に設定した「コンピュータビジョン（CV）研究」だけでなく「ヒューマンインタフェース(HI)研究」にも注力した研究開発を実施するというミッションに対し、CV研究ではIEEE TPAMI誌2件、国際会議ICCV 4件、CVPR 8件、HI研究では、ACM論文誌 4件、国際会議CHI 8件等、両分野で採択が難関な論文誌や国際会議へ数多く採択されるとともに、ICCVで権威あるMarr Prize Honorable Mention Awardの受賞を含め、科学技術にインパクトを与える成果を上げた。知的情報処理システムとして、手術室での協働支援システムや視覚障害者のナビゲーション支援システムを構築し、実証実験により有効性を示し、最終目標を達成した。これらの成果は戦略目標である「状況に応じた対話」と「対話・作業メカニズムの解明」の達成にも貢献した。データセットやソースコードの公開も積極的に実施され、今後、医療・福祉分野における支援システムだけでなく、幅広い画像やヒューマンインタフェース分野への応用に発展していくことを期待する。